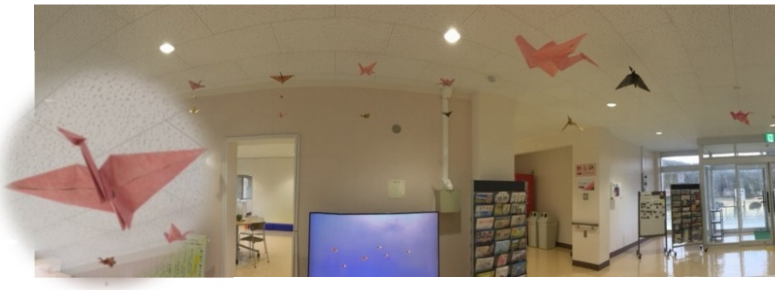
トキと自然の学習館 便り

R2.1.24
No.28

長岡市トキと自然の学習館 トキみ〜て

■トキの羽ネズミ色に

令和2年になりました。本年も多くの皆様のお越しを心よりお待ちしております。トキと自然の学習館では新しい年を祝い、トキの折り紙で飾り付けをしました。優雅に舞う折りトキがお出迎えします。



さて今年はネズミ年ですが、トキはと言うと、、、

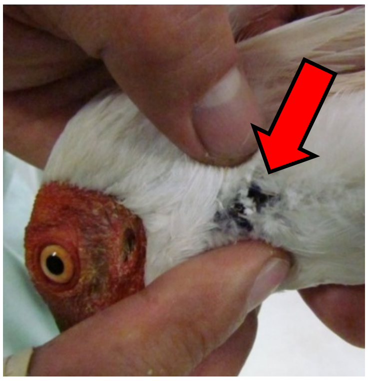
羽の一部がネズミ色（灰色）になりました！

トキといえば白い羽というイメージが強いですが、実は全体が白いのは１０月～１月中旬位まで。一年を通すと灰色が交じっている時期のほうが長いのです！

しかもこの羽、生え変わりで出てくるのではなくトキ自らが色を付けているのです！

他の動物では聞いたことがない、トキだけがすると言われている「羽の色付け行動」。砂や泥を使うわけではありません。灰色の正体はトキの首まわりに隠されています！

☞首まわりの写真です。トキは頭部から首にかけて皮膚が黒くなっていて、繁殖期が近づくとこの皮膚が厚くなり粉状になって剥がれ落ちます。



これを水浴びしながら体にこすりつけ、白い羽を灰色に変えていくのです。

水浴び後もしばらく首をスリスリと体にこすりつけ、色付けで大忙し。

なぜこのような行動をとるのでしょう？その理由は二つ考えられています。

一つは『**繁殖できることを示すため**』。オスとメスどちらも色付けを行うことで、互いに子育てができる体になったことを表していると考えられています。
二つ目は『**天敵から身を守るため**』。白より灰色の体の方が木々に溶け込み、目立ちにくくなります。子育て中に天敵から見つからないようにするための保護色とも考えられています。

これから徐々に灰色の範囲が広がり、子育て真っ盛りの４月～6月は頭から背中全体に色が付きます。トキの体の不思議を、ぜひ「トキみ～て」でご覧下さい。

昨年6月の様子

■つがいも春支度

長岡市では、公開している５羽のオスの他に３組のつがいを飼育しています。こちらも羽の色が変わり始め、今月中旬から擬交尾が確認されています。

そのうちの１組、昨年１０月に佐渡トキ保護センターからやってきた新婚のつがいは、これまでいたつがいが、高齢で卵を産み育てることが難しいと判断されたため、バトンタッチしたものです。写真右のメスは長岡市生まれ。春には里帰り産卵してくれることを期待したいと思います。